

清水安三 しみずやすみ 教育家。明治二十四年六月一日滋賀縣高島郡新旭町
 生れ、昭和六十二年一月十七日歿（一九九一—一九八八）。同志社大學神學部
 卒。大正六年渡米、八年北京で飢饉の救済運動に従事、翌年崇貞女子
 工讀學校（通稱崇貞學園）を創設した。昭和二十一年歸國、東京町田
 市にキリスト教主義の櫻美林學園を開校、のち大學に至る総合學園と
 する。

著書に『支那の人々』（昭和十二年六月十日都友社）、『姉妹の父母』
 （昭和十四年二月二十日改造社）、『朝陽門外』（昭和十四年四月一
 十日朝日新聞社）、『希望なき矢のぞ』（續朝陽門外）（昭和二十二年
 九月一日櫻美林學園出版部）、『中江藤樹はキリシタンであつた—中
 江藤樹の神学』（昭和二十四年四月二十一日桜美林學園出版部）、『中
 江藤樹』（昭和四十一年四月十日東出版株式会社）、『北京清潭—体
 験の中国』（昭和五十年六月一日教育出版株式会社）等。また、松本
 恵子著『大陸の聖女（故清水美穂子傳）』（昭和十五年二月二十日都友
 社）、上原秀信著『愛の建設者』（昭和十四年四月十五日村田書店）
 は崇貞學園の物語。

